

本当は

危険な
ダイエット

糖尿病薬「マンジャロ」の 不適切使用



SNSで2型糖尿病治療薬「マンジャロ」が、やせられる薬として紹介され、自由診療で処方されるケースがあります。マンジャロには食欲減退の作用があるため、食事量を減らす目的で使用されているようですが、厚生省は「健康被害につながるおそれがある」として注意喚起を行っています。

マンジャロ使用のリスクとは？

肥満ではないにもかかわらず、若い女性がマンジャロをダイエット目的で使用するケースが多いようです。

太っていない人が使用すると、副作用のリスクがより高まったり、低栄養による肌荒れや月経不順などを起こしたりします。また、薬を必要としている糖尿病患者に行き渡らなくなるなど、社会的な問題になることも懸念されます。

本当に減量が必要な人は…

薬に頼るのではなく、まずは食事や運動といった生活習慣の見直しから始めることが重要です。なお、医師から2型糖尿病と診断され、薬が処方された場合は、必ず医師の適切な管理のもとで治療を進めましょう。

ダイエット目的での使用は避けてください！

マンジャロはすい臓からのインスリン分泌を促す薬です。2型糖尿病に対してのみ効果・効能が認められ、保険診療として使用できます。一方で、ダイエットなど、本来の目的以外での使用については、安全性・有効性は確認されていません。



●命に関わる副作用が起こりうる

これまでに、吐き気・下痢・便秘などの消化器症状や、急性すい炎、低血糖、腸閉塞などの命に関わるような副作用が報告されています。報告されていない副作用が生じる可能性も否定できません。

●救済制度の対象外

上記のような重篤な健康被害が起きても、本来の目的外の使用であるため、「医薬品副作用被害救済制度」の対象外になります。医療費などの救済給付を受けられません。



監修 東京科学大学 名誉教授
川口 陽子

大人のむし歯

近年、オーラルケアへの関心が高まってきています。お口の健康のトレンドを押さえて、健康常識をブラッシュアップ！



大人のむし歯も歯を失う原因に

むし歯は子どもの病気だと思われていますが、実は大人にも多くみられます。20歳以上でむし歯を経験した人は9割を超えており、**40歳以上の約4割はむし歯が原因で歯を失っています**。大人のむし歯は子どものむし歯とは違い、鋭い痛みがなくゆっくり進行します。気づいたときには悪化していることが多いので**早期発見が大切**です。



大人によくみられるむし歯の特徴

①以前にむし歯の治療をした歯(二次むし歯)

過去のむし歯治療によって歯に詰め物をしている人は多いですが、年月とともに詰め物は劣化していきます。すると、**歯と詰め物の間にすき間や段差ができ、そこから細菌が侵入してむし歯になる**場合があります(二次むし歯)。特に、治療で神経を抜いた歯では痛みを感じにくく、発見が遅れることもあります。

②歯肉が下がった歯の根元

加齢や歯周病によって歯肉が下がると歯の根元が露出してきました。歯の根元の表面は他の部分より柔らかいため、歯みがきを丁寧にしないうで不潔にしていると**むし歯が発生しやすく、進行も早くなる**ので注意が必要です。

そのほか、子どもの場合と同様に、歯と歯の間や噛む面の溝など歯垢(プラーク)が残りやすい場所もむし歯になりやすいので、気をつけましょう。

■大人むし歯の要注意箇所



詰め物と歯のすき間



露出した歯の根元



痛くなる前に歯科健診

大人のむし歯は自覚症状が少なく発見が遅れがちです。**毎日のセルフケア(歯みがき)をしっかりと行うだけでなく、早期発見のために定期的な歯科健診(3~6か月に一回)の受診を習慣づけましょう。**